

遊火負・凶林 春季彼岸 結願法要

三月十七日から二十三日までお彼岸です。この間お寺もしくはご自宅での読経供養を致します。ご希望の方はご連絡ください。

左記のとおり春季彼岸会法要をお勤めいたします。皆様お誘いあわせの上賑々しく御参詣下さい

三月二十三日（水）
午後一時より

尚十九日（土）、二十日（日）、二十一日（月）、の3日間は、お寺にお参りの方はご参詣になつた順にお勤め致しますので予約は不要です。その他

の日は住職、副住職共に外に出ていることが多いので必ず時間の予約をお願いいたします。

*お寺にご遺骨をお預けの方は期間

おとき（婦人会の皆様の手作りの

お食事です）

衆僧総供養読経

春のお彼岸です。

ここ何年か春一番が吹いても鼻がぐずぐずいわない、それ

どころか世間にマスクが溢れてもたまに鼻がつまるくらい

で何ともない。花粉症も40年以上続けると身体も無駄な

抵抗をやめるらしい。くしゃみと鼻水、眼もかゆくて涙が止

まらないとき、特にお経をお勧めしている最中にお焼香の煙

なんかに誘発された時なんか「なんとかしてくれえ」とこ

の季節を嫌つたものが何ともなくなつてしまふと時候の

挨拶のように「お互い大変ですね」なんてことも言えず一抹

の寂しささえ感じる。勝手なものだ。でも、大丈夫。私には

痛風と糖尿そして最近人気上昇中の血圧がある。痛風は発作

が起きるとめちゃくちやに痛いし、糖尿病はその時は死にか

けたが普段は何もない、がいずれ合併症が出る、血圧だつて

塩分ひかえなくてはならないし面倒な事になつてしまつた

と思う。が、しかし、糖尿病のお蔭で毎日コンスタントに体

を動かす為「住職、最近すつきりしましたね」と言われこの

尿病万歳！

寺報の文章もこここのところ良くなつてきたと褒められる。糖尿

病を含めじぶんに与えられた状況や環境を「縁」という。

先人は「縁によつて生まれ、縁によつて生き、縁によつて死

す」という。残念なことだがこの「縁」は選ぶことはできな

い。与えられた「縁」の中で何かを感じ行動する。そこにま

た「縁」が与えられる。また考える。そうやって右往左往と

ジタバタしながら今の私は出来上がつているらしい。「らし

い」と云うのは「お釈迦さま、理屈では解るんですが、いや

なものは嫌でしょう」なんて納得できない思いが結構あるか

ら。

彼岸の父や諸仏が「馬つ鹿だなあ」と見てる事でしょう。

ただ「仏さま」が「馬鹿だなあ」と觀ているときには自分も

かつては同じ「馬鹿」だつたという自覚ゆえの優しさが共感

として有ります。「馬鹿」を照らす光が彼岸より届いていま

この稿を書いている現在、世の中を賑わせている関心事というものは、芸能人の不倫問題と国會議員の不倫問題と元スポーツ選手の覚醒剤問題です。そして、現在、国会が開かれており、その国会において、首相が「憲法9条を改正（改悪）する」と言つたこと、環境大臣が、「年間一ミリシーベルト以下の被ばく線量を長期的な目標」としていることに対して、「何の根拠もない目標」と述べ、その上、国の除染目標値に関しては「反放射能の人がワーカー騒いだ」ためだとも云い放つてのこと、総務大臣が「政権に対して弓を引くような放送をした場合、電波停止をする」という言論封鎖とも取れるような発言をしたことに対するはほとんど興味を示していません、悲しいかな日本の社会人は。

戦争に突入できるようになること。原発を再稼働して儲けるためになら多少の被爆はギャーギャー言われたくないという姿勢。言論統制を進めることが、どうでもいいくだらないスキヤンダルの方が大事なようです。結局、私たちは、高みにいる人間が落ちていく姿を見るのが気持ちがいいのでしょうか。隣の青い芝生が枯れるのが、自分の芝生が青くなるように努力するよりも嬉しいのです。面倒なことは考えたくない病が相当進行しています。そういうしている間に取り返しのつかないことになってしまっています。なんあの時、と、思つても遅い……。その「あの時」を「恍惚の間」というのでしょう。「心うぱわれている間」「浮かれている間」「とりとめもなく過ごしている間」ということ。

わたしたちが常日頃大事にしている社会的価値観って何なのでしょう。非常にあいまいな価値観です。いかにも、ほとんど

の人々が共有している価値観のように言いますが、まったく共に有しているなんて言えないのではないでしようか。株式会社に勤めている人。有限会社に勤めている人。自営業の人。自由業の人。農業の人。漁業の人。お寺の人。価値観はバラバラです。勤め先の立場でも違います。そこに、専業主婦、学生、幼児もありますし、退職して老後を過ごしている人もいます。社会的価値観などというくくりはできませんし、妄想であると言つても過言ではないでしよう。

確かに、法律や規律、規制などによつてある種の価値観の共有は図れます。この法律や規制といふものも、その場その場で変わつていきます。生活が変われば、規制も変わり、法律も変えざるをえなくなつてきます。自転車が増えれば、自転車に対する規制や法律がより細かくなつてきます。当たり前のことです。

社会的価値観も法律も規制も、非常にあやふやで、危ないものであることを我々は知つておかなければなりません。

それをいかにも生活の基準だと勘違いをしていると、幻想を基準に、とんでもない所へと進んで行つてしまします。お酒飲んで車を運転しているようなものです。そうした状況を「恍惚の間」というのでしょう。

「ひそかに愚案をめぐらして」と、『歎異抄』は始まります。じつと、「愚かしい考え方である」と認識しながらも、考えることを止めずにいる、他人事ではなく、他に対してもではなく自身の価値観に対して、常に疑問を持ち続けていることが、あまりにも欠落してしまつていて思えます。

自分という存在に対して、考え、悩み、苦悩することは、人間に与えられた権利です。大事にしましょう。

卯美美（娘）がスマートフォンを落として壊したので新しいものに買い替えた。ついでに私も携帯電話からスマホに変えてみた。スマホは凄い！はずのだが使う人間が凄くない為にその凄さが解らない。まあ画面が5倍くらい大きくなつたから字がとつても見やすいくらいかな。

その卯美美がお蔭さまでこの春高校生になる。娘の中では色々なことが少しづつ変化しているのだろう。でもいつも一緒にいる親父もそれに呼応して変化しているからあまり気づけない。ガラケイの中の写真やらデータをスマホに移す際小学2年の娘が校歌を全力で歌っている声が録音してあつた。ほぼ十年前の声だ。親にとつては爆笑しながらも可愛くて微笑ましくとつても良いのだが、自分がその年ごろだった時の事を考えると本人とつては氣恥ずかしく「やめろ！」と言いたくなるものだろう。まだ極端な反抗期にはなつてないが生意気な口をきいた日にはこの録音聞かせるぜ！ カクノ如く嫌われるジジイになつて行く。

住職からのお願い

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることが有ります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとつて一生の一大事です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願ひ申し上げます。

定例行事

聞法会 每月2日 午後七時より

現在、鉛筆写經と法話、座談会やつてます

歎異抄を読み聞く会、グリーフケアの会「微妙音」

毎月5日午後7時

白色白光の会（婦人会）毎月第二木曜

お経の練習と法話と茶話会です

浄土真宗はじめて講座 二月、四月、六月、十月、十二月
の第二土曜午後二時より五時まで